

2016(H28)年度 北陸電カグループの取組み

2016年3月

 北陸電力株式会社

はじめに

いよいよ4月から小売全面自由化がスタートし、2020年4月からは送配電部門の法的分離が予定されるなど、当社グループを取り巻く経営環境は大きく変化しています。また、志賀原子力発電所の停止による厳しい電力需給や収支状況が続いており、この難局を打破し競争を勝ち抜くため、以下の経営方針のもと、諸課題への取組みを一層強化してまいります。

まずは、志賀原子力発電所の早期再稼働の実現に向けた取組みです。新規制基準への適合性確認審査の場で、シームに関する当社の調査結果を科学的・合理的にご説明し、再稼働へのステップを着実に進めていく必要があります。そして、発電所における安全性向上工事を安全・確実に進め、地域の皆さまのご理解のもと、再稼働を成し遂げる所存です。

また、小売全面自由化については、低廉な電気料金水準を維持していくとともに、新たな電気料金メニューや、「ほくりンク」をはじめとするサービスの拡充等により、引き続きお客さまから選択いただけるよう努めてまいります。

更に、送配電部門の法的分離に対しては、昨年7月に設置した「2020体制整備委員会」等において、これまで培ってきた「一体感」を活かせる会社形態等についての検討を加速いたします。

いかなる経営環境にあっても、お客さまに「低廉で良質なエネルギーを安定的にお届けする」という当社グループの社会的使命が変わりはありません。そして、今後も北陸地域とともに発展できるよう、これらの取組みを着実に進め、皆さまから「信頼され選択される北陸電力グループ」を目指してまいります。

2016(H28)年度 北陸電力グループ経営方針

1. 安定供給を確保する

供給安定性、経済性に優れ、発電時にCO₂を排出しないことから、ベースロード電源として今後も引き続き重要な役割を担う志賀原子力発電所の安全強化に徹底して取り組むとともに、敷地内シームに関する審査や新規制基準への適合性確認審査に的確に対応し、早期再稼働を目指す。

また、高稼働が続いている水力・火力発電所の着実な補修や、流通設備の機能維持対策の計画的な実施により、安定供給を確保する。

- 志賀原子力発電所の早期再稼働および安全・安定運転に向けた不断の取組み
- 供給信頼度の維持に向けた電力設備の整備
- エネルギーの効率的利用に向けた取組み
- 電源の低炭素化に向けた取組み
- 国のエネルギー・環境政策への対応

2. 競争力を高める

安全最優先を前提とした更なる経営効率化や、競争力ある電源の整備・活用により、低廉・良質な電気を安定的にお届けするとともに、お客さまのニーズにより的確にお応えするサービスの展開等、あらゆる点において競争力を高め、小売全面自由化後の厳しい競争環境に対処する。

- 志賀原子力発電所の早期再稼働および安全・安定運転に向けた不断の取組み
- 安全最優先を前提としたコスト競争力の更なる強化
- お客さまから選択いただくための営業活動の展開

3. 電力システム改革に適応する

2020年4月からの送配電部門の法的分離に対し、業務の中立性・透明性確保と最適な事業運営の両立に向け、着実に準備を進めていく。また、小売全面自由化に伴う諸制度に基づき、的確な業務運営を行っていく。

- 送配電部門の法的分離への的確な対応
- 小売全面自由化に伴う諸制度への的確な対応
- 電力広域的運営推進機関への的確な対応

4. グループ全体の収益性を高める

LNG販売を含めた総合エネルギー事業の展開や、グループ各社の競争力強化に向けた取組みにより、グループ全体の収益性を高め、持続的成長を目指していく。

- 総合エネルギー事業の展開
- グループ各社の競争力強化に向けた取組み

5. 経営基盤を支える取組みを徹底する

安定供給や競争力強化、電力システム改革に向けた課題等に的確に対処し、当社グループの持続的な成長を図るため、安全最優先を徹底するとともに、女性の活躍推進や活力ある組織風土・職場づくりなど、個人・組織が能力を最大限発揮できるよう環境を整備する。

また、当社グループの取組みについて、お客さまや地域の皆さまとの双方向対話活動を展開するとともに、地域との協働による活性化に取り組むことにより、地域社会から信頼いただく。

- 安全最優先の徹底および業務品質向上への自律的な取組み
- 個人・組織の能力発揮に向けた環境の整備
- 地域社会から信頼いただくための取組み

2016年度の主な取組み

1. 安定供給を確保する

■ 志賀原子力発電所敷地内シーム問題に対する的確な対応

- ・新規規制基準への適合性確認審査の場で、新たな地質データ等をもとに科学的・合理的にご説明し、再稼働へのステップを着実に進められるよう努めてまいります。

2013年12月	当社が最終報告書を原子力規制委員会へ提出 〔結論〕敷地内シームは、「将来活動する可能性のある断層等」ではない
2015年7月	第7回有識者会合で評価書案が提示 ・12～13万年前以降に動いた「明確な根拠は見い出せない」とする一方、活動した可能性を「否定できない」とされた
2015年8月	上記評価書案に対する当社意見書を有識者会合に提出 ・3名の社外学識者による“当社意見は科学的合理性を有しており、妥当”との見解書を添付
2015年11月	ピア・レビュー会合(※) ・評価書案に対する疑問や異論等、評価の根幹に関わる多くのコメントが出された
2016年3月	第8回有識者会合が開催 ・ピア・レビューからの評価の根幹に関わる重要なコメントが反映されず、また当社の調査結果を踏まえない仮定に基づく評価により、活動性を認める旨の結論となった

(※)有識者会合の評価書案が科学的・技術的見地にに基づいているかを確認する会合

■ 志賀原子力発電所の安全対策の着実な実施

- ・他社の新規規制基準適合性審査の状況を踏まえ、安全性をより一層向上させる観点から、工事内容の充実を図っています。
- ・当社は、2014年8月に志賀2号機の新規規制基準への適合性確認審査を申請済みであり、引き続き、安全性向上工事を着実に進めるとともに、審査にも適切に対応してまいります。

<主な安全性向上工事の実施状況>



■供給信頼度の維持に向けた電力設備の整備

- ・志賀原子力発電所の停止が継続するなか、供給力の確保に向け、水力・火力発電所の補修時期の調整など可能な限りの対策を講じるとともに、現在、高稼働が続いている設備や高経年設備の更新、補修を計画的に実施してまいります。

<流通設備の供給信頼度・機能維持対策の実施>

- ・設備の保守管理・運用を確実にを行うとともに、高度成長期に施設した設備の更新工事が今後ピークを迎えることを踏まえ、長期的な更新工事計画の平準化や施工体制を確保し設備の機能維持を図ってまいります。

【「Eリーグ北陸」による取組み】

2015年7月、当社の送配電工事を実施する企業とのグループ「Eリーグ北陸」を立ち上げ、送配電工事従事者の人材確保・育成に向けた取組みを進めております。今後も緊密な連携を図り、電力の安定供給に努めてまいります。

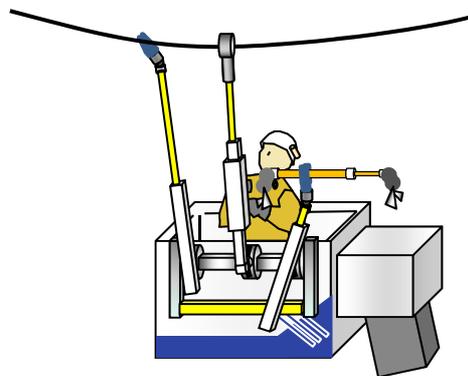
【主な取組み】

- ・主に、就職希望の学生とそこご両親、就職担当の教職員の皆さまを対象に、送配電工事会社の「社会に貢献する使命感」「技術面で成長できるやりがい」、「経営面の安定性」などをPRするパンフレット、動画を作成。
- ・当社と「Eリーグ北陸」加盟会社は、採用活動やインターンシップの受入時や、高校生との意見交換会の場などでも、そのパンフレット、動画を活用。



【配電工専用ロボットの開発に向けた研究】

- ・現在、大学と共同研究契約を結び、配電用作業ロボットの開発に向けた研究を進めています。
- ・まずは、作業員を補助する補助型ロボット（右図）の開発を行い、将来的には配電工事における作業を自動化することにより、作業の効率化、省力化と作業員の負担軽減を図ってまいります。



補助型ロボットのイメージ

■エネルギーの効率的利用に向けた取組み

<スマートメーターの着実な設置と効率的活用>

- ・全世帯への設置が2024年3月までに完了するよう、計画的に設置してまいります。
- ・エネルギーの効率的利用に資するスマートメーターの機能を活用し、お客さまへのサービス向上に努めてまいります。



スマートメーター設置の様子

■電源の低炭素化に向けた取組み

- ・当社初のLNG火力発電所の新設や、費用対効果を踏まえた再生可能エネルギーの開発に着実に取組み、電源の低炭素化に努めてまいります。

< LNG火力建設計画の着実な推進 >

- ・富山新港火力発電所石炭1号機をリプレースし、CO₂排出量を大幅に低減できるLNG（液化天然ガス）を燃料とするコンバインドサイクル発電設備※1の建設工事を安全最優先に進めてまいります。

※1 ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた発電設備で、従来の蒸気タービンでの発電と比較して熱効率が高く、エネルギーの有効活用が図れる。

出力	着工	運転開始予定	CO ₂ 削減量※2
42.47万kW	2015年3月	2018年11月	120万t-CO ₂ /年程度

※2 LNG1号機運転開始による新港地点でのCO₂削減量



富山新港火力発電所LNG1号機イメージ図

< 再生可能エネルギーの導入拡大 >

- ・将来にわたり環境にやさしい電気をお届けしていくため、再生可能エネルギーの導入を着実に進めてまいります。

[水力発電]

- ・昨年、部分出力(3,000kW)で運転を開始した片貝別又発電所は、本年最大出力で営業運転を開始する予定です。

発電所名	出力	発電電力量	運転開始予定	CO ₂ 削減量※
片貝別又	4,400kW	1,740万kWh/年程度	2016年5月 (部分運転開始 2015年12月)	1.06万t-CO ₂ /年程度

※当社2014年度調整後CO₂排出原単位を使用して試算（以下、風力発電も同じ）

- ・今後、水力発電電力量拡大の目標を引き上げ、既存発電所の改修等による出力増加に取り組んでまいります。

達成時期	発電電力量拡大目標
2020年度までに	1.3億kWh/年拡大(2007年度対比)

*従来目標の「2020年度までに1億kWh/年拡大(2007年度対比)」は、2016年度までに達成見込み。



片貝別又発電所



[風力発電]

- ・当社グループの日本海発電(株)がテクノポート福井において建設中の新規風力発電所について、2017年1月の運転開始に向け、着実に工事を進めてまいります。

発電所名	出力	発電電力量	運転開始予定	CO ₂ 削減量
三国風力	8,000kW (2,000kW×4基)	1,440万kWh/年程度	2017年1月	0.88万t-CO ₂ /年程度



三国風力発電所イメージ図

2. 競争力を高める

■お客さまから選択いただくための取組み

- ・お客さまから引き続き当社をお選びいただけるよう、「こたえていく。かなえていく。北陸電力」のブランディングメッセージのもと、サービス会員制度「ほくリンク」などを通じ、お客さまのご要望にお応えできる新たなサービスや電気料金メニューについて、引き続き検討してまいります。

<サービス会員制度「ほくリンク」>



<「ほくリンク」の意味>

- ・北陸に根差す企業として、お客さまや地域とつながりたい(=リンク)という思いを込めました。

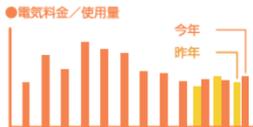
- ・「ほくリンク」の会員の皆さまには、パソコンやスマートフォン等で電気料金の使用量をご確認いただけるサービスなど、各種サービスをご提供してまいります。
- ・本年7月を目途に、お客さまや地域との一層のつながりをコンセプトに、ポイントサービスを導入いたします。

[主なサービス内容]

※1：2016年4月開始予定、※2：2016年7月目途に開始予定

①電気料金・使用量照会サービス

- 電気料金や使用量がひと目でわかります



- 電気料金・使用量・口座振替日をメールでお知らせ



- よく似たご家庭と電気使用量を比較※1



②メールマガジン

暮らしの快適情報や省エネのヒントなどお役立ち情報をお届け



③お得ネット

地域の商品・サービスを紹介



④エルプラdeカルチャー

エルプラザでの各種教室開催や趣味の作品展示



⑤お困りごと解決※1

鍵、窓ガラス、水まわりなどの駆け付け修理やハウスクリーニングのサービスをご提供



⑥省エネ診断

環境・お財布にやさしい電気の使い方をご提案



⑦出かけて節電

節電にご協力いただいた時間帯に、協力店舗などをご利用いただけるクーポンをメールでお届け



⑧ポイントサービス※2

- ・会員登録、検針票Web閲覧、アンケート回答などでポイントを付与
- ・ポイントは、地元企業の商品・ポイント等と交換



<新たな電気料金メニュー>

・お客さまに電気の使い方を工夫していただくことで、よりお得になるメニューを設定いたしました。

【くつろぎナイト12】

・夜間および土日祝日の昼間の電気のご使用量が多いお客さま向け

[メニューの特徴]

- ①お得な夜間時間帯を、ご使用量の多い夜8時から朝8時までの12時間に設定
- ②土曜日、日曜日、祝日の昼間は、割安なウィークエンド時間を設定

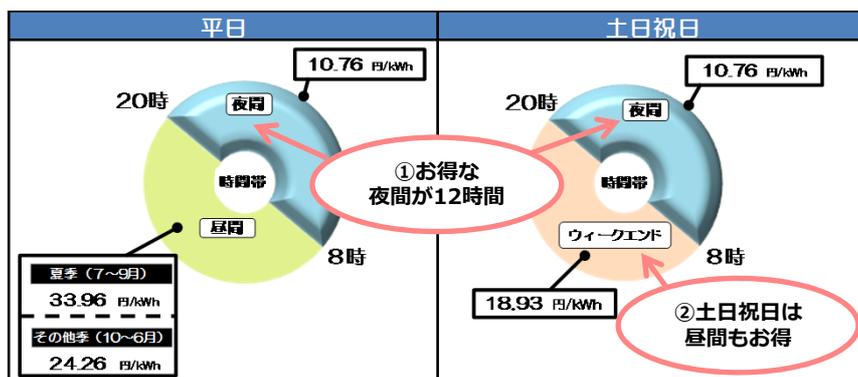
[ご加入条件]

エコキュート等のヒートポンプ式
給湯機をご使用のお客さま

[実施日] 2016年8月1日

[受付開始日] 2016年7月1日

[電力量料金単価 (税込)]



【節電とくとく電灯・節電とくとくプラン】

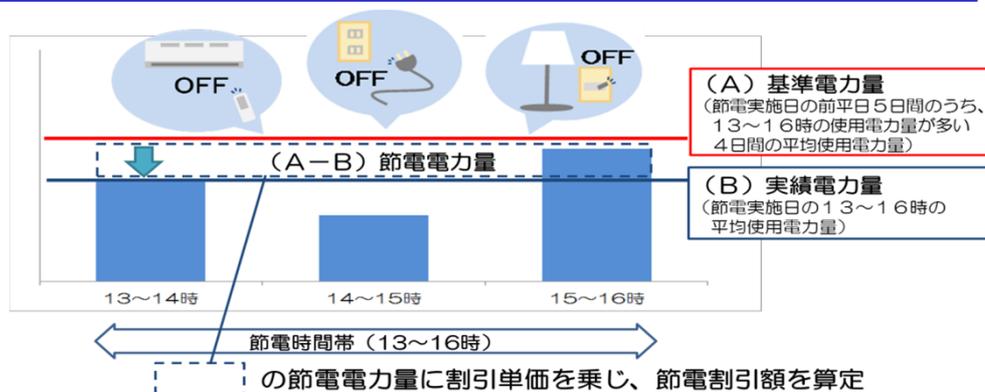
・節電にご協力いただけるお客さま向け

[メニューの特徴]

※ほくリンク会員限定メニュー

- ・当社がメールにより予めお知らせする日時(例：7～9月の13～16時)に節電いただくと、その実績に応じて電気料金を割引

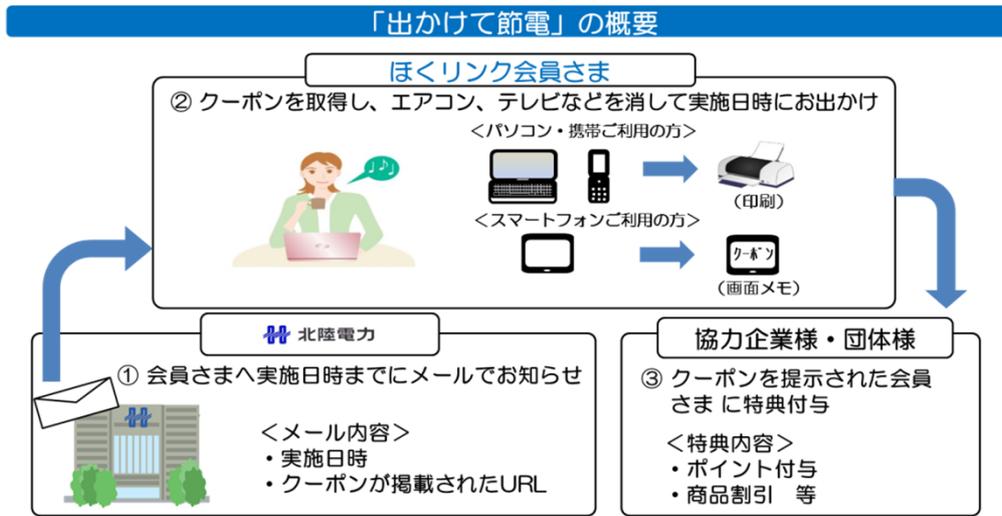
[節電割引のイメージ]



	節電とくとく電灯	節電とくとくプラン [くつろぎナイト12 附帯割引プラン]
ご加入条件	① ほくリンク会員 かつ ② 契約電流が60A または 契約容量が6kVA以上のお客さま ＜おすすめポイント＞ 従量電灯の適用範囲に該当し、 1日を通して電気のご使用量が多く、節電にご協力いただけるお客さま	① ほくリンク会員 かつ ② くつろぎナイト12にご加入のお客さま ＜おすすめポイント＞ くつろぎナイト12にご加入で、 節電にご協力いただけるお客さま
受付開始日 実施日	2016年3月11日 2016年4月1日	2016年8月1日
割引単価	13～16時 (3時間) の 1時間平均節電電力量1kWhにつき 129.60円 割引	13～16時 (3時間) の 1時間平均節電電力量1kWhにつき 194.40円 割引

【更にお得な使い方】

- ・「出かけて節電」と組み合わせることで、電気料金の割引に加えてお得なクーポンを活用し、ポイント付与や商品割引等の特典を受けることも可能です。



<首都圏エリアでのご家庭向けの電力販売>

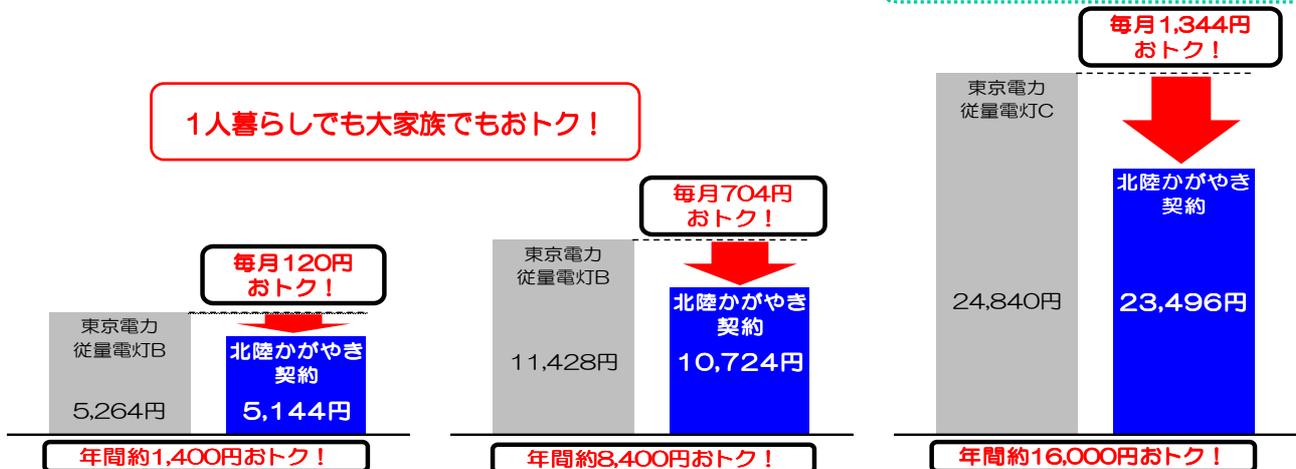
- ・志賀原子力発電所の停止により供給余力に限りはあるものの、北陸電力エリアの安定供給を最優先としたうえで数量を限定し、首都圏エリアでの電力販売を実施してまいります。
 (首都圏にお住いの北陸ご出身の方など、北陸ゆかりのお客さまを中心にPR)
- ・2016年4月から、首都圏エリアのご家庭向けの電気料金メニューとして「北陸かがやき契約」を新たに設定し、第一次販売分として1,000件のお客さまに販売を開始してまいります。

【北陸かがやき契約】

- ・単身のお客さまから、ご家族の多いお客さままで、幅広くメリットがあります。
 (月間120kWhを超える電気をご使用されるお客さまにおすすめです)

*契約容量30A以上等のご加入条件があります。

モデルケース①	モデルケース②	モデルケース③
集合住宅で一人暮らしのお客さま	戸建住宅で三人家族のお客さま	二世帯住宅等ご家族の多いお客さま
契約電流 : 30A	契約電流 : 50A	契約容量 : 10kVA
月間使用量 : 200kWh	月間使用量 : 400kWh	月間使用量 : 800kWh



- ※ 消費税等相当額を含み、燃料費調整単価および再生可能エネルギー発電促進賦課金は含みません。
- ※ 東京電力従量電灯の料金は、地球温暖化対策のための税の増税を反映した2016年6月1日以降のご使用分に適用となる単価で算定しております。(2016年1月1日実施の電気供給約款)
- ※ 東京電力従量電灯の料金は、口座振替割引を含みません。
- ※ 年間のメリット額は、月間のメリット額を12倍したものであり、実際のメリット額は電気のご利用状況により変化します。

■経営効率化への取組み状況

・当社は、志賀原子力発電所の停止に伴う燃料費増加など厳しい経営環境に対処すべく、2012年に社長を本部長とする「2012緊急経営対策本部」を設置し、あらゆる分野に関して、組織・部門・グループの垣根を越えた徹底的な効率化に一丸となって取り組んでまいりました。

・2015年度については、石炭火力発電所の定期点検時期の見直しや、24時間体制での点検実施による工程短縮等により、発電コストの安い石炭火力を最大限活用し、燃料費の低減を図っています。

また、ピーク時間以外の供給余力を販売するなど卸電力取引所を積極的に活用し、最大限の効率化に取り組んでまいりました。



火力発電所定期点検工事の様子

・2016年度についても、引き続き厳しい経営環境に対処していくため、これまで取り組んできた効率化努力を今後も継続していきます。

また、従来の取組みは既に定着していることから、2016年度はそれらをベースに、本年4月からの小売全面自由化開始による競争拡大を見据えた更なる効率化として資材調達価格の7%低減に取り組むことにより、70億円程度の効率化を計画いたしました。



給電指令による需給調整の様子

<これまでの取組み>

	内 容
人件費・諸経費等 コスト削減の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化による人件費の削減 ・低灰分・低コストの石炭(インドネシア, ロシア等)の利用拡大 ・競争発注の拡大による資材調達価格の低減 ・施策の優先順位明確化による諸経費の削減
火力発電所定期点検 の工程・内容効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・定期点検の工程・内容の見直し等による燃料費の低減
効率的な需給運用の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・需要変動に応じた経済的な需給運用 ・供給余力を最大限活用した卸電力取引所への販売

■多様な調達方策の活用

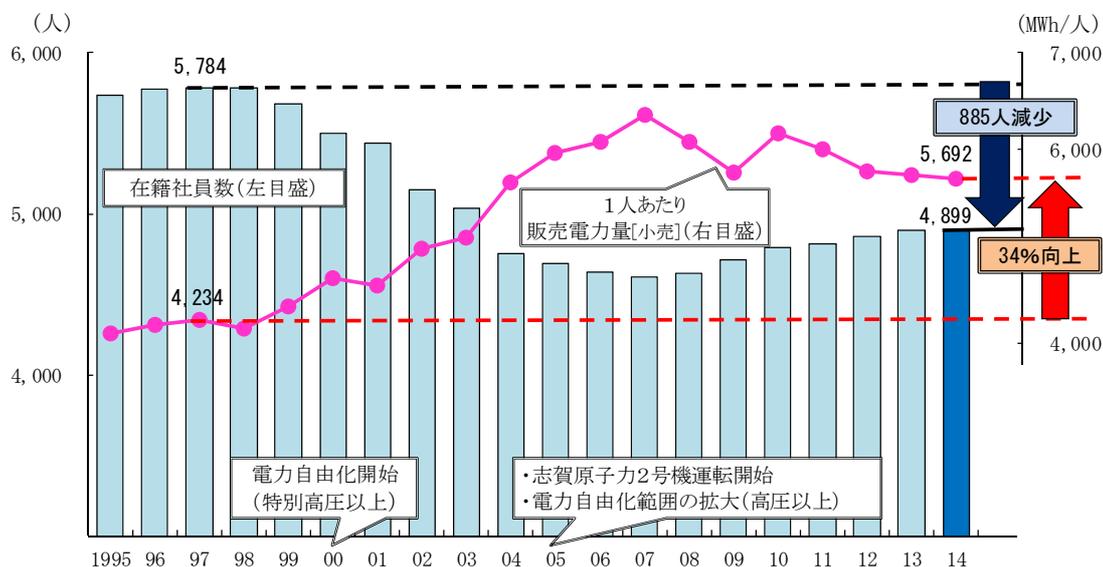
- ・当社は、電力の安定供給および資機材の安定調達、経済性の観点から、個別件名ごとに最適な調達方法を採用しており、引き続き調達コストの低減を進めてまいります。

方 策	概 要
競争入札 (ターゲットプライス方式)	見積依頼時に、コスト低減を織り込んだ上限価格（希望価格）を提示・入札し、最安値の入札者に発注する
順位配分競争	価格低減と安定調達を両立させるため、競争見積の順位に応じて発注シェアに傾斜をつけ、複数の取引先へ発注する (価格は原則として見積結果第1位の価格に統一)
まとめ競争	類似の時期に発注する同種の物品または工事をまとめて発注することにより、スケールメリットを活かして購入価格の低減を図る
集中・複数年購買競争	年間（または複数年）の発注予定数量を一括して競争することにより、スケールメリットを活かして購入価格の低減を図る
分離競争	特命発注の一部を分離し、他の取引先も加えて競争入札することにより、購入価格の低減を図る (物品製作／据付け、現場管理／施工を分離)
技術提案型競争 (VE提案型競争)	設備の機能を低下させずにコストダウンを可能とする技術提案や見積の提出を取引先に求め、詳細仕様等に反映させることでコスト低減を図る
共同調達	他電力と調達予定数量を共同で競争することにより、スケールメリットを活かして購入価格の低減を図る

<参考1：人員の効率化>

- ・これまで徹底的な業務効率化を推進し、採用数を大幅に抑制するなど人員効率化に取り組んできた結果、社員数は2007年度末に約4,600人まで減少しました。
- ・その後は、新規電源開発(LNG・水力)、高経年流通設備改修等のため人員増となりましたが、2014年度の人員数は、ピーク時の1997年度と比べ885人減少(5,784人→4,899人)しており、労働生産性を示す1人あたり販売電力量[小売]については、34%向上しております。

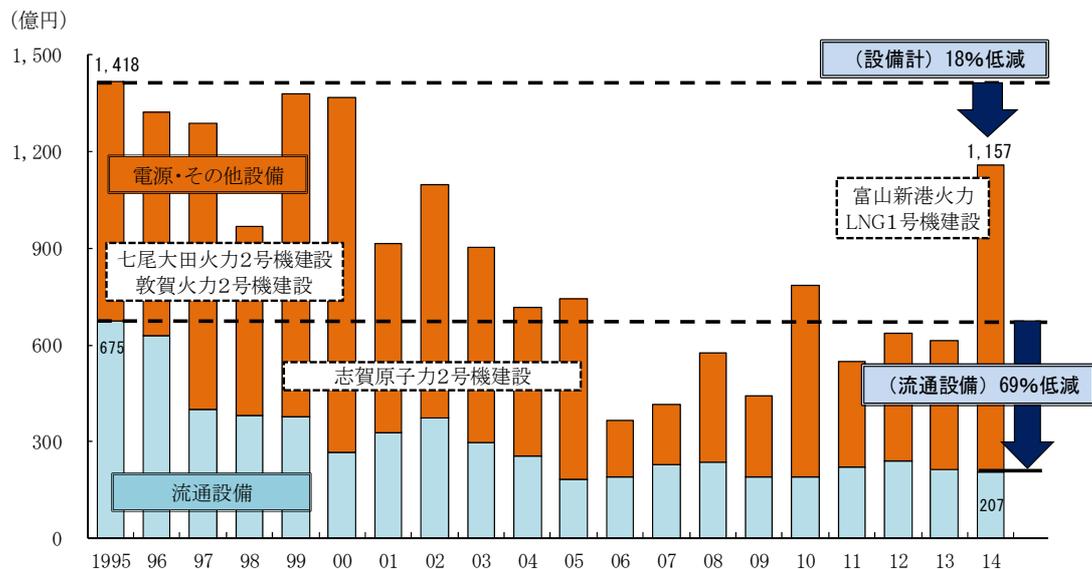
<在籍人員数と1人あたり販売電力量[小売]（1995～2014）>



<参考2：設備投資額の削減>

- ・安全最優先を大前提として、安定供給に必要な設備の形成・更新に取り組む一方、工事内容の精査や競争発注比率の拡大等により設備投資額の抑制に努めてまいりました。
- ・近年では、富山新港火力発電所LNG1号機建設（2018年度運開）や志賀原子力発電所の安全対策といった大型電源投資があるものの、2014年度の設備投資額は、過去20年間のピークであった1995年度と比べて18%低減しており、流通設備では69%低減しております。

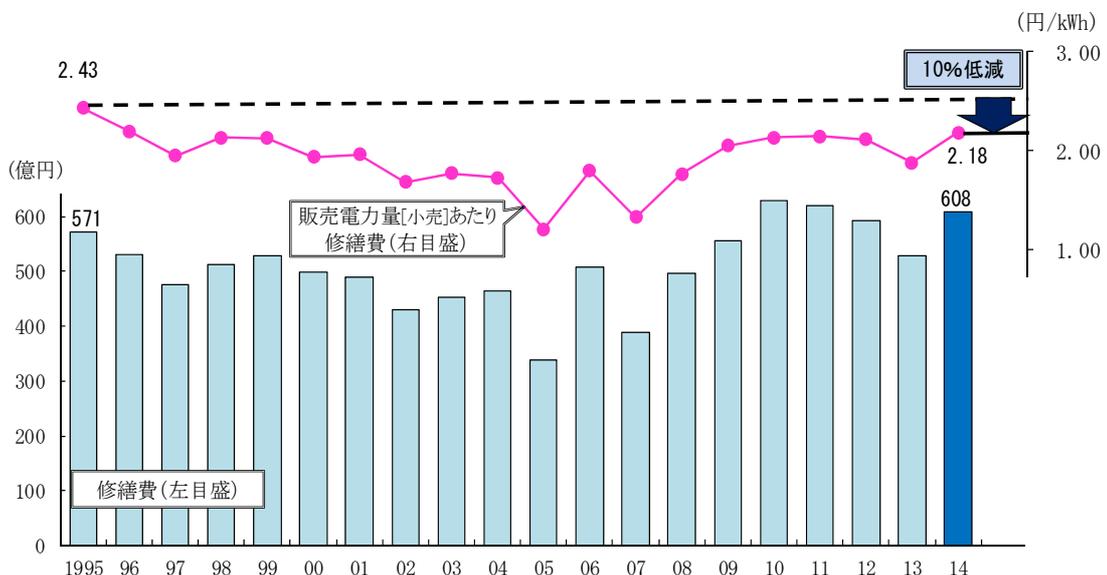
<設備投資額の推移（1995～2014）>



<参考3：修繕費の削減>

- ・修繕工事の実施にあたっては、安定供給を最優先に、設備の点検・補修内容の見直しや、工事実施の繰り延べを行うなど、費用の抑制に努めてまいりました。
- ・2014年度の販売電力量[小売]あたりの修繕費は、2.18円/kWhとなり、過去20年間のピークであった1995年度と比べて、10%低減しております。

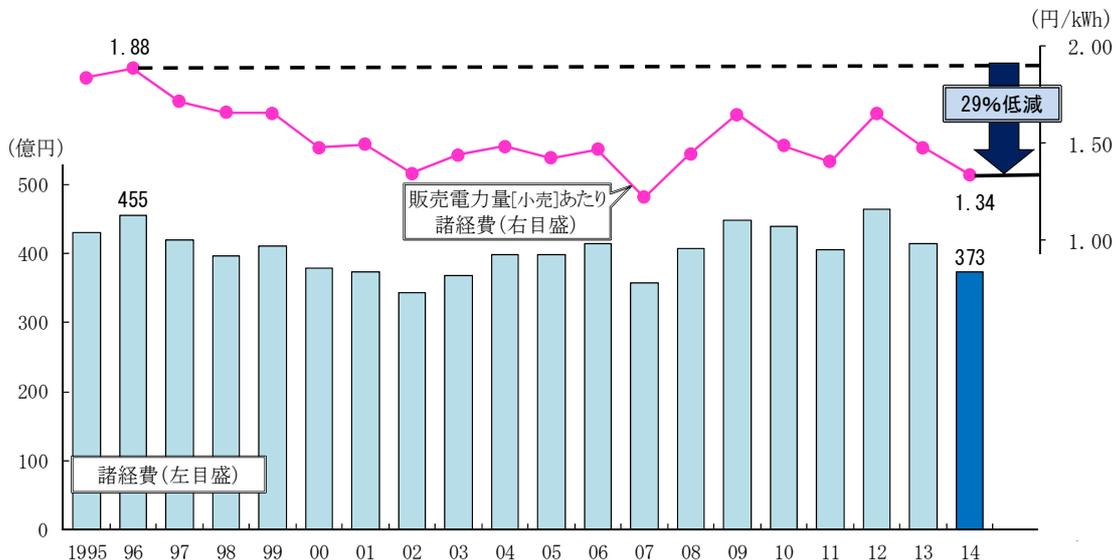
<修繕費と販売電力量[小売]あたり修繕費の推移（1995～2014）>



<参考4：諸経費の削減>

- ・経費全般にわたり徹底したコスト削減に取り組んできた結果、2014年度の販売電力量[小売]あたりの諸経費は、1.34円/kWhとなり、過去20年間のピークであった1996年度と比べて、29%低減しております。

<諸経費と販売電力量[小売]あたり諸経費の推移（1995～2014）>



(注) 諸経費：消耗品費、補償費、賃借料、委託費、損害保険料、普及開発関係費、養成費、研究費、諸費

3. 電力システム改革に適応する

- ・電力システム改革が、真にお客さまの利益に繋がるよう、世の中の変化やニーズに柔軟に対応しながら、事業者として最大限前向きに取り組んでまいります。
- ・その中で、送配電部門の法的分離については、安定供給を損なうことのないよう、中長期的な供給力の確保策等を慎重に整備することが必要です。また、電力需給の改善や原子力事業環境の整備等の課題についても、必要な措置が講じられているか確認する必要があります。
- ・今後国で予定されている検証が確実に行われ、問題が生じている場合には、実施時期の見直しも含め、柔軟に対応していくことが必要だと考えております。

<法的分離に向けた取組み状況>

- ・2015年7月に「2020体制整備委員会」を設置し、会社形態等の基本的な方向性について議論を進めてきており、今後、北陸地域を基盤に総合力の発揮に努めてきた当社の強みを活かせる会社形態となるよう、組織再編や経営管理など様々な課題の検討を加速させてまいります。

【委員会における検討体制】



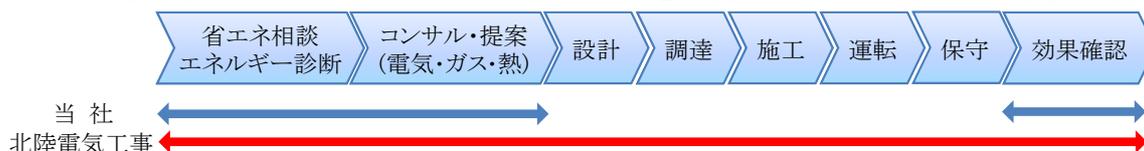
4. グループ全体の収益性を高める

- ・当社グループで保有する経営資源を最大限に活用し、お客さまのニーズにお応えする総合エネルギー事業を展開し、グループ一体となり収益拡大に取り組んでまいります。

<お客さまへの最適なソリューションサービスのご提供>

- ・北陸電気工事(株)との連携を一層強化し、工場やビルにおける電気・ガス・熱などの最適なエネルギー提案に加え、設備の設計・調達・施工から、運転・保守までをご提供する受託サービスなど、エネルギーに関するお客さまの高度化・多様化したニーズに的確にお応えしてまいります。

【エネルギー設備受託サービスの提供イメージ（北陸電気工事との連携によりワンストップでお客さまへ提供）】



<お客さまへの最適なエネルギーサービスのご提供>

- ・北陸エルネス(株)と北陸電気工事(株)が連携し、LNG供給とお客さま側のLNG受入基地(サテライト設備)の施工・保守を一体的にご提案して、お客さまの省エネ・省コスト、CO₂削減のニーズにお応えしてまいります。
- ・2018年度運転開始予定の当社富山新港LNG基地を活用したLNG販売の更なる拡大に取り組むとともに、安定的にお届けできる体制を構築してまいります。



LNG配送用タンクローリー

<お客さまへの最適なICTソリューションサービスのご提供>

- ・北電情報システムサービス(株) [情報システム]，北陸通信ネットワーク(株) [通信サービス]，(株)パワー・アンド・IT [データセンター] の3社が連携し、情報システムの開発、通信ネットワークの構築に加え、災害時の事業継続計画(BCP)対策など、情報通信分野において多様化するお客さまニーズにお応えする最適なサービスをご提供してまいります。



- 左：システムオペレーション作業の様子
(北電情報システムサービス)
- 右上：通信回線の運用監視作業の様子
(北陸通信ネットワーク)
- 右下：データセンターのハウジングラック群
(パワー・アンド・IT)

5. 経営基盤を支える取組みを徹底する

■安全最優先とコンプライアンスの徹底，業務品質向上

- ・コンプライアンスの徹底に向け，コンプライアンス研修，各職場での集団討議など，自律的な活動を引き続き行ってまいります。
- ・また，安全最優先を徹底するとともに，労働災害の撲滅に向け，従業員等への安全教育・安全管理を確実に実施してまいります。
- ・さらに，業務品質の向上を目指し，基本業務の点検や，効果的な改善活動等に，たゆみなく取り組んでまいります。



コンプライアンス研修会の様子
(北陸発電工事)

■個人・組織の能力発揮に向けた環境の整備

- ・企業の活力と競争力を更に高めていくため，年齢や性別等に関わらず，従業員一人ひとりが能力を最大限発揮できる環境整備や，現場技術力を含む専門能力の維持・向上等に着実に取り組んでまいります。

<女性の更なる活躍推進>

- ・女性従業員がより意欲を持って働くことができるよう職域を拡大してきており，営業・地域広報・燃料調達等の事務部門や配電・土木等の技術部門で，多くの女性従業員が能力を発揮しています。

【女性役職者数に関する目標】

新目標	2020年を目途に2015年(24名)の3倍程度(約70名)を目指す
-----	------------------------------------

*従来目標「2016年を目途に2013年(14名)の2倍程度(約30名)」は達成できる見込み。

右記デザインマークを活用し，ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。



配電部門の女性従業員

【女性の更なる活躍推進に向けた取組み】

- ・2015年10月，内閣府男女共同参画局が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に，当社社長自らが賛同いたしました。
- ・また，女性従業員と社長との座談会，女性懇談会の開催，社内報でのロールモデル紹介等，女性従業員の声を反映した取組みを精力的に実行しています。今後も，女性の更なる活躍推進に向けた取組みを進めてまいります。



女性従業員と社長との座談会

■地域社会から信頼いただくための取組み

<地域の皆さまとの相互理解を深める活動の推進>

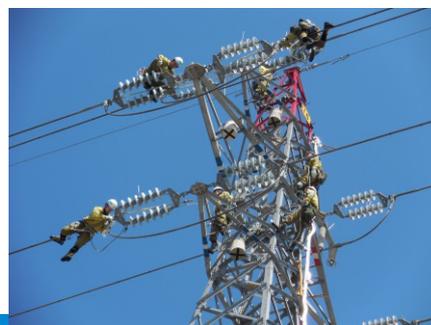
- ・志賀原子力発電所の安全性について、地域の皆さまに、あらゆる機会を通じ、わかりやすく、丁寧にご説明し、ご理解、ご安心いただけるよう全社を挙げて取り組んでまいります。



現地見学会の様子
(緊急時対策棟 増築工事状況)

どんなに時代が変わっても
ずっと変わらない想い。
暮らしに夢を、
北陸に未来を、
届けていく。

さあ、いっしょに未来へ。



こたえていく。かなえていく。北陸電力

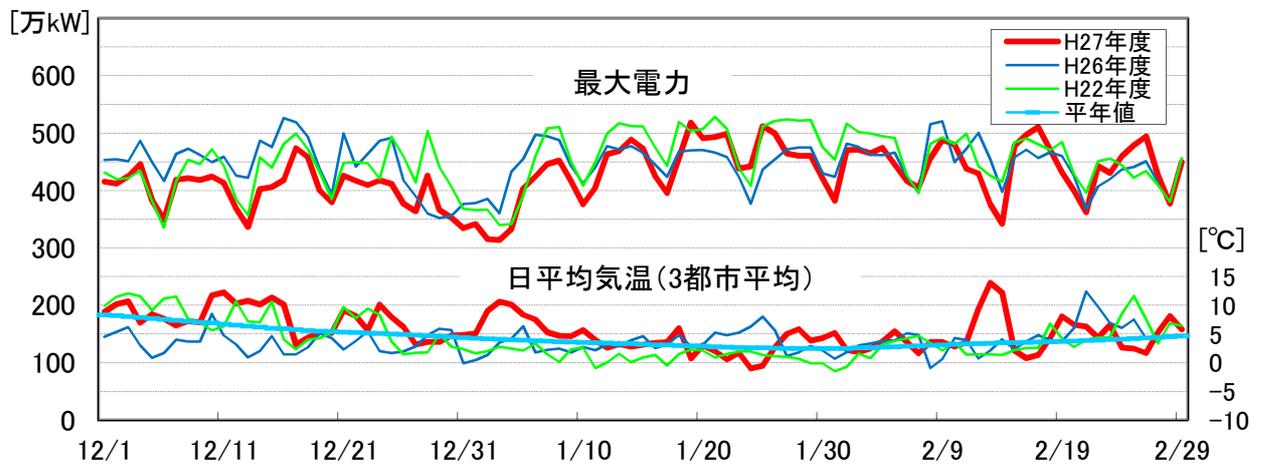
今冬の電力需給実績について

1. 今冬の電力需給バランス(発電端)

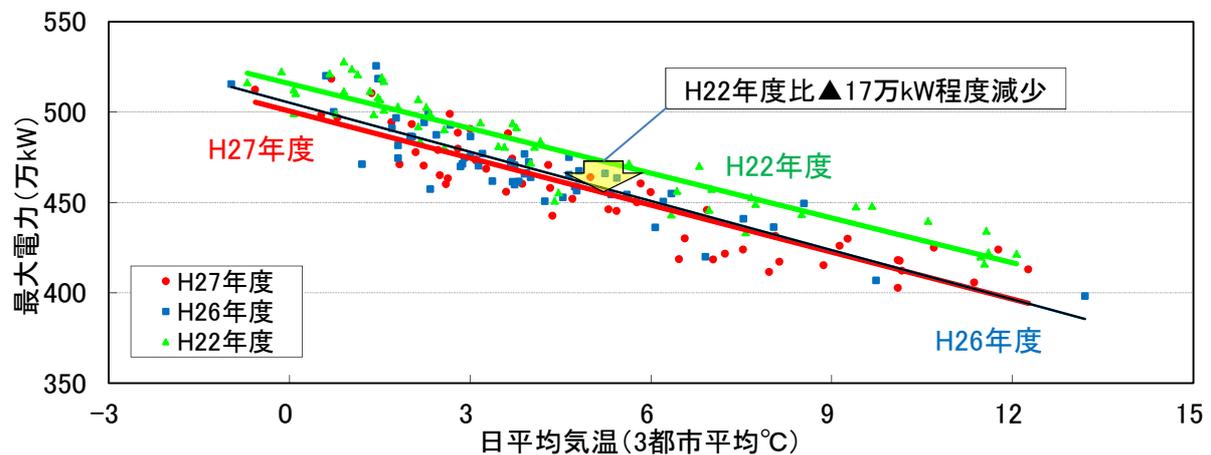
	今冬の見通し(1月)		最大電力発生日 1/19(火)実績	予備率最小日 12/15(火)実績
	厳寒ケース	平温ケース		
供給力	567万kW	567万kW	559万kW	429万kW
最大電力※	529万kW	516万kW	518万kW	406万kW
予備力	38万kW	51万kW	41万kW	23万kW
予備率	7.3%	10.0%	7.8%	5.6%

※ 想定には、節電にご協力いただいた場合の減少分(▲10万kW)および厳寒による増加分(+13万kW)を織込み

2. 最大電力と気温の推移



3. 過年度との最大電力比較 (12~2月平日)



4. 過年度との気温比較 (富山・金沢・福井の3都市平均)

	実績				H27年度一過年度比較		
	H27年度	H26年度	H22年度	平年値	H26年度比	H22年度比	平年比
12月	7.6	3.9	6.6	6.1	3.7	1.0	1.5
1月	4.3	3.3	1.2	3.2	1.0	3.1	1.1
2月	4.7	4.2	4.0	3.5	0.5	0.7	1.2
期間平均	5.5	3.8	3.9	4.3	1.8	1.6	1.3

(注) 四捨五入により合計が一致しない場合がある。